

平成二十六年十一月一日(土) 日本の魅力を探るVI.
新作 夢の衣／壺坂靈驗記」公演 俳句集

嵐吹く 仏にすがりて およぎきる

富田 節子様

紅葉雨 三つ違いの 見さんと
霊水や お里沢一 夜寒かな
霜の月 老師ことば それそれに

丹羽 敬忠様

夢の衣 纏ふや深き 秋の暮

永井 江美子様

秋雨に 尼の笑顔と 阿国かな

中島 満男様

尼僧立てば 香の残りて 秋深し

秋冷に 跳ねて止まりて 向き足袋

沢市と 見たかつぼ坂 初もみじ

黒木 須雅子様

天佑の 吾が身に満ちて 柿甘し

村上 進様

古典の日 夢の衣を 共に着て

藤尾 州様

秋雨の 女歌舞伎や 夢衣

水谷 鏡子様

秋雨の そぼ降る昼後に 観る歌舞伎

高橋 佳子様

古典の日の 娘歌舞伎や 冬初め

河原 幸夫様

出雲の阿国 むすめかぶきに 秋の夕

本間 慧光様

足さばき これもひとつの 特技かな

小川 興淳様

雅やか むすめ歌舞伎が 秋に舞う

小林 一光様

父母と観る むすめ歌舞伎と 秋の日と

小川 千晶様

雨の中 紅葉舞い散る むすめ舞う(歌舞伎)

佐藤 千浄様

さやけしや 夢の衣の 秋ひと日

遠島 満宗様

釈迦語る 娘歌舞伎や 芭蕉の忌

小川 峰夫様

夢のころも 苦得をえようと 夢うつつ

森下 真理子様

日本の美 皆で愛でいる 古典の日

岩田 孝子様

まなじりは 修練のあと 霜月や

いちの ちづる様

ばらのとげ だんなにばかり むけていた

北岡 由美子様

紅葉ぞら 釈迦のめぐみの ころも舞ふ

花見 だんご様

知らずして 文化にふれる 夢ごころも

磯邊 弥寿子様

あめふる日 舞う紅葉かな 出逢いうれし

?安?代様

浮世絵の 色彩にまた 舞が立ち

名無し

力無き 声にさみしき 秋の雨

中島 多美様

柿の実の たわれにみのる 秋の空

神の様

萄人形 ごとき奴の 舞い姿

名無し

秋雨に ひたひたとつまびいて かぶき人

神野 昌子様

祖母植えし 八重櫻花 孫は櫻香に今盛ん

校子様

夫恋いの 袖振り絞る 秋時雨

名無し

紅葉雨 色・音ひびく 夢歌舞伎

寺澤 成光様

深々の 秋に包まれて むすめ歌舞伎

山下様

み佛も 遊化ましまさん 夢衣

青山 俊董老師

秋色の むすめかぶきの 夢衣

小嶋 義規様

紅葉雨 むすめかぶきや 紅の彩

名無し

開きたる 澤市の眼に 露萬朶

馬場 駿吉先生

雨の中 楽しくみせる むすめかぶき

富尾 智恵様

古典の日 心も潤す 秋の雨

名無し

むらさきの 色かはるほど むすめ舞う

名無し

巡り合い 花燃え揺らぐ 秋木立

時駆けて 花燃え乱る 秋木立

秋冷を つつのし慈悲の 夢衣

名無し